さくらの景観まちづくり賞　建築物部門

在来木造真壁工法
で造られたモダン建築

「中尾余町個人宅」

（中尾余町・個人住宅）

応募理由

佐倉の土地の木を一部使用した木造二階建て住宅。地域の住民が集える OPEN な間取り。日本古来の工法（在来木造真壁工法）でつくられている。

受賞理由

周辺の住宅と調和する勾配屋根を使用。広々としたウッドデッキには開放感があり、人々が集まることが出来る憩いの空間となっている。木材を多く使用した在来木造で佐倉の風土に馴染む建築となっており、当該エリアの良好な景観形成に貢献していることが評価された。

佐倉市景観審議会からの講評

≪特に優れているポイントなど≫

- 周囲の景観に違和感なく溶け込んでいながら、個性あるファサードである。

- 夜景も街並み景観を構成する重要な要素となっており、景観に温かみを感じさせてくれる。照明の色や外部への見え方（開口部の構成など）への配慮がうかがえる。
- 佐倉の土地の木を用いた日本古来の工法の木造住宅、地域住民が集えるOPENな間取り、ということで、「佐倉の暮らし」を牽引するようなコンセプトといえる。
- 屋外にも印象的に用いられた木材や外壁は上品にまとめられ、周辺の樹林の中にあって良く映える。
- 夜間は窓から漏れる光が、日中とはまた異なる、温かな家庭を想起させる。
- 広々としたウッドデッキと高い軒が開放的な住宅になっている。
- 外壁も落ち着いた配色で、周辺の住宅地に調和した住宅となっている。
- 落ち着いた色彩に自然の木肌が組み合わされ、周囲の里山ともなじむ外観となっている。また、在来工法を取り入れつつも、大きな開口部や軒下空間など、開放感があり現在的にも見えるデザインにまとめられていることは素晴らしい。
- 3000K相当の暖かい光でまとめられた照明計画も住宅らしく暖かく落ち着いた夜間風景を創出している。
- 日本家屋風の勾配屋根、白い壁、古民家を意識したような木の梁を見せる外観で、新町の景観に寄与している。
- 大きな屋根と多くの窓、座って茶飲み出来そうなウッドデッキが明るく人を招き入れてくれそうな開放感を感じる。
- オープンテラスからそびえ立つ丸太柱が、周囲の緑とマッチングしているため、建物が優しい雰囲気になっている。
- 外壁色、屋根形状が周囲との協調性が図られており、地域として落ち着きのある建物である。
- 「佐倉の土地の木」を使用する試みは高く評価すべきである。本来各々の地域の気候風土に拠って育った木こそ、その土地で木材として育てる木造住宅には最適であり、末永く保つものだからである。
- 在来木造真壁工法であることも、同様の意味に於いて望ましい選択だと思われる。在来工法は日本の風土によって洗練されてきた工法だからである。旧来の日本家屋では外と内を結ぶ役割の「縁側」があった。本件の大きなベランダはその役割を担ってくれそうな感じがする。
- 左官部分を含めて自然系の素材で外観を纏めていて、中尾余町という佐倉旧市街地の中でもかろうじて古い雰囲気が残るエリアにおける新築の際の景観のあり方を誘導することが期待できる。

≪より良い景観に向けて≫

- 造園や植栽によりさらなる景観向上が期待される。
- 緑に囲まれることで、上品さや温かさ、心地良さがより引き立つ建物であると思われる。庭や外構がある程度整った姿や、テラスと庭を行き来しながらのびのび過ごす佐倉の暮らしの風景が創出されるよう、暮らしながら建物と土地を育ててほしい。
- 庭空間が開放的な分だけ外構が素っ気ないのが気になった。後背地の住宅の緑などもあるが、こちらの敷地内にもう少し緑があったらよいのではないかと感じる。またウッドデッキ側が正面性をもっているのでエアコンの室外機の取り回しが裏になるとさらによかったかと思われる。

- 今後、外構の整備が進んでいくと思われる。建物南面については道路や隣地からもよく見える状況となっているので、空調室外機などは目立たないように設えるとさらに周囲に馴染んだ落ち着いた雰囲気ができると思われる。
- 住宅に合わせた塀などを造られると、さらに広がりを持つ景観になると考える。
- オープンテラスや、無垢の丸太柱部分は、年数の経過とともに味わいが出てくると思われるが、外構についても、それに見合った整備（手入れ）をしていくと、さらに暖かみが増すと思われる。
- オープンな前庭の室外機の修景を含め今後の整備に期待する。
- 佐倉に普遍的に見られる「在来木造工法」を選択しているが、外見的には切妻式の屋根以外は周辺住宅とは異質な感じがする。それは住宅としての秀劣ではなく、開放感にあると思われる。特に夜間においてこれほどの光量が外に漏れ出す眺めは当該小字地区では些か馴染まないのではないか。活用の点で考慮されたい。
- 東側が敷地いっぱいに建っている感じがするので、もう少し敷地境界に余裕をもって計画できれば、庇を更に長くするなど表わしの木構造らしい風情をより活かすことができ、併せて耐久性の向上にもつながると思われる。

さくらの景観まちづくり賞　建築物部門

自然を感じられる多世代交流の場

「千成幼稚園、せんなり村」

（千成・保育施設、地域子育て交流棟）

応募理由

佐倉市の自然豊かな森林環境に囲まれた場所に、乳児から幼児が生活をする保育施設を建設しました。耐火木造建築により安心と安全そして森に囲まれていることにより、乳児と幼児が手で触れるところはすべて木質系建材で仕上げました。敷地内には里山のような森があり日々子どもたちは自然と共に過ごしています。この乳幼児期の重要な時が自然と触れることにより心も身体ものびのびと開放し、将来子どもたちの原風景になってほしいという願いがあります。

敷地内に隣接している地域子育て交流棟「せんなり村」には地域の高齢者の方々のコミュニティとなっており、幼児と地域のおじいちゃんおばあちゃんが交流できる場所となっています。大きな家のような建物となっており、自然と子どもとお年寄りとがみんなで過ごすことができる地域の拠点となっている建物です。

NPO 法人せんなり村の活動拠点にもなっており、子どもの貧困問題や地域の社会問題など新たな地域コミュニティ作りの拠点にもなっています。月に一度子ども食堂や駄菓子屋を展開し、長期休みには学習支援や地域の方による子ども習字教室にも活用されています。（第5回･6回内閣府子供の未来国民応援運動ネットワーク事業採択）

受賞理由

佐倉の自然豊かな森林環境に囲まれた土地に、温かみのある色彩で染められた建材に白い壁を合わせた開放感のある造りになっている。勾配屋根を採用し、樹林のスカイラインに配慮され見事に自然に溶け込んだ風土に馴染む建築となっている。また、子ども食堂や紙芝居、絵本の読み聞かせ等の様々な活動を通して地域の方々が交流できる場所となっている。

佐倉市景観審議会からの講評

≪特に優れているポイントなど≫

- 背後の樹林のみどりのボリュームとスカイラインを阻害しない、敷地計画（建築の位置）、高さを抑えた建築と、やわらかい屋根の形状。
- 建築と園庭が景観的にも機能的にも一体的にデザインされている。
- 以上のことが、敷地外（道路など）からも確認できるような敷地計画となっており、街並み景観の向上に寄与している。
- 園舎・交流棟のみでなく、園庭や隣接する森を含め、敷地一体の環境づくりを高く評価すべき物件である。
- 魅力的な高齢者の居場所と魅力的な子育て環境は、佐倉を生活の場に選ぶにあたって重要な要素となりえる。当該物件はその両方をうまく組み合わせて新たな価値を生み出しているといえる。
- 建物の内側と外側の両側で、老若男女問わず地域の人々が交わり、子どもたちの成長を見守ることができる新たな風景が生まれたことは、純粋に嬉しい。
- 後背地の森を抱えて、水平方向を強調した軒が美しい。
- 相対する交流施設と庭の配置もよく、多世代の人の関わりが見える風景が期待できる。
- 周囲を里山の自然で囲まれた立地にあって、周囲に馴染む勾配屋根を採用しつつ、意匠面だけでなく、しっかりとした軒を設けたり、庇下の半屋外空間を作るなど空間形成面での合理性も感じられる。また、こどもが長い時間を過ごす場として、積極的に木材を用い、優しい風合いのデザインでまとめていることも高く評価できる。
- 日本家屋風の屋根、白い壁に四角い窓、遠景からみると城郭のようで落ち着きのある建物である。後方は里山であり、自然環境に溶け込んだ建物となっていて、地域景観に寄与している。
- 自然の森を有し白壁、大きな円窓に勾配屋根の木造建築はおだやかな景観である。
- 次世代を引き継ぐ幼児達が、自然にふれながら遊ぶ様子をみることが出来る。
- 間口側2階の大きな窓が、建物全体を明るいイメージにしている。
- 水平を意識した建物が背後の雑木林と一体になっており、地域に溶け込んでいる。
- 当該物件は周囲を小高い森に囲まれた谷津状低地に占位しており、今回の設計はその環境的優位性を遺憾なく活かしている。即ち独特な地理的・景観的優位性を極めてよく捉え活かしている。色彩・デザイン共に周辺の自然環境に溶け込み、また敷地内の統一感も良い。
- 幼保連携型の認定こども園としてはかなり大きなボリュームの建物であるが、建物が敷地の奥に配置されているので、街の景観に対する圧迫感が少なくなっている。

≪より良い景観に向けて≫

- 駐車場と園庭境界部の植栽の充実。
- 巣立った子どもたちがまた帰ってくる機会や仕組みづくり、子どもたちやその親にとって、このような建物や環境が「あたりまえの風景」と思い起こせるような将来を目指して、活動と併せて建物のみならず敷地一体の環境維持を図ってほしい。
- 子どもたちが毎日楽しく通いたくなる工夫や設えがさらに活動の中で増えてくると思われる。そんな風景がさらに育まれるようにしていただけたらと思う。
- 駐車場と園庭との間に緑を配置すると園児の遊び環境がよりよくなると思う。
- 里山を感じられる自然と様々な人々とのふれ合いの場を大切にして欲しいと思う。
- 建物背面の森の色とシンクロするような植物（緑）を、建物周囲にも添えられると建物の明るいイメージが引き立つと思われる。
- 庇と外壁のコントラストが強く、カチットしたイメージなので、外壁に色味をいれることで優しい感じの園舎になるのではないかと思う。
- 壁面やスリープブロック周辺部分などに植栽ポットを配置するなど、活用面に於いてより「みどり」を取込む工夫をしてはどうか。
- 団地の一番奥に位置する敷地なので、景観という面では街に対するアピールは少なくなるが、敷地の入口付近で道路側から見た景色を印象付ける建築物などを考えられると、より街とのウェルカムな関係が演出できるかも知れないと思われる。

さくらの景観まちづくり賞　活動部門

佐倉の美しい里山の整備・保全活動

「佐倉里山支援２８」

（下志津・佐倉里山自然公園内竹林）

応募理由

４年前から佐倉里山自然公園内の竹藪を整備して、きれいな竹林作りを行っている。

陽ざしがあたる林床には、春になるとキンランが400株ほど咲くようになった。ニリンソウの群落もみることができる。切った竹は柴垣や竹炭づくりに利用し、公園内を散策する市民から喜ばれている。

本年度、佐倉里山自然公園という名称が決まり、その中の竹林として知られるようになってきた。

受賞理由

市民カレッジ28期卒業生を中心に４年間にわたり月１回の継続的かつ自主的な活動を行っており、竹林整備やアレチウリの駆除活動などによって美しい自然風景の景観維持及び向上に寄与していることが評価された。こうした活動によってキンランやニリンソウなどの植生の回復や伐採した竹を柴垣や竹炭づくりに使用するなど資源循環に工夫がみられることも評価された。

佐倉市景観審議会からの講評

≪特に優れているポイントなど≫

- 活動の成果が林床の失われつつある植生の回復を促しているほか、園内を散策する人に良い印象を与えていること。
- 活動の成果が、公道からも確認できることにより、沿道景観の改善に寄与していること。
- 竹林整備やアレチウリ駆除など手間のかかる作業をある程度の広さにわたり長年継続して以上のような具体的な成果を上げていること。
- 手間暇かかる竹林整備は、長年の定期的な管理行為が欠かせない。ひとたび荒廃した竹林は、なおさら、竹との戦いに苦労する。継続的かつ定期的な活動により、美しい竹林が保たれていること、さらに希少種であるキンランが400株咲くまでに生態系を回復させた環境づくりは、佐倉の魅力的な里山景観を創出しており、高く評価できる。
- 伐採竹を竹垣や竹炭として活用している点は、持続可能な里山景観形成や資源循環の観点から、同様の課題を抱えた他の里山活動にとっても模範となる活動といえる。
- 佐倉の貴重な里地里山保全の活動で、周辺住民との交流など行われており、対象地の保全活動のみならず、周辺への波及がある点が評価できる。
- 景観保全に活動の広がりが見られる点が特に評価できる。
- 千葉県内でも各地で竹林の荒廃が指摘される中、適正な管理により陽が差し込む明るい林床と、竹林の自然を感じることができる遊歩道が持続的に整備されていることは大変素晴らしく、会員各位の努力の賜物と高く評価できる。また、遊歩道についても、階段や柵などに木材や竹材を利用した整備によって自然な雰囲気を作り出しているのも素晴らしい活動だと思う。
- ハード面のみならず、自然観察会の実施や小学校の学習支援などのソフト面でも地域への貢献、地域と連携が図られていることも高く評価できる。
- 市内には竹が多く自生している。これは佐倉市の自然景観を構成する素材の一つといえるが、道路から眺めるだけのところが多い。
  竹林は手入れが悪いと密生したり、枯れて倒れたままの状態になったりする。また、大風の時などに被害を受けやすい。そのため管理が行き届かないと、乱雑な竹林となってしまう。
  「佐倉里山支援28」は、定期的に竹林を整備して、市民が散策できるようにしているとある。これは、「ひよどり坂」の竹林とともに、佐倉を代表するような自然にふれあう散策コースとなるのではないだろうか。そして、整備した後の竹を利用して柴垣や竹炭づくりなどをしているとある。取り除いた竹を再利用するという点も優れていると思う。
  清々しい竹林に差し込み陽光は美しく、人の心を癒し落ち着かせる。
  整備の為に切った竹を活用し、自然を大切にしている。
- 林間に伸びる階段のゆるやかなカーブ曲線が美しい。
- 佐倉里山自然公園内の里山の雑木林の景観保全にかかせない重要な維持保全活動である。
- 竹林管理は山林～庭園管理で最も大変で手間の掛かる作業である。地道な活動で見事に成し得ており、立派な竹林のある里山を復元している。
- 荒れやすい竹林を整備し里山を保全しながら、市民の散策に心地よい自然の雰囲気の景観を創り挙げてゆく活動が素晴らしいと思う。
- 自然の環境の中に人が利用して心地よい風景を生み出す活動は、とても労力が必要なのでご苦労が目に見える。市民として感謝の気持ちで一杯である。

≪より良い景観に向けて≫

- 参加者を維持、増加させ活動を継続していくこと。
- すでに行われている自然観察会や子どもの環境学習支援をさらに充実させて、里山のファンを増やすこと。
- 伐採竹の活用が、公園内のみでなく、市内の竹垣整備活動や景観整備にも拡げられると、竹資源を介してこの活動や佐倉里山公園のことが、多くの人に知られるきっかけとなりえるのではないか。横のネットワーク拡大にも期待したい。
- 関わりをもった方たちとさらに保全活動に参加してもらったり、他団体と一緒に実施するなどの展開に期待したい。
- 二輪草や金蘭は野生のものなのか？姿がやさしい花である。群生すると良い。
- 階段登り始め階段付近のスペースに自然色と正反対の色でカラーリングされたおしゃれな構造物（看板やモニュメント）があったら、風景に差し色がはいり引き立つと思われる。
- 里山の維持保全は、佐倉里山支援28をはじめ多数のボランティア団体の活動により支えられている。他の団体の活動の周知、表彰等により、ボランティア団体の底辺を広げる工夫がこれからの佐倉里山自然公園の維持管理をおこなうことが必要だと思う。
- 保全から完全性の確保まで進んでいるので、更にゆったりと滞在出来る空間整備に進んで欲しい。その際、よくありがちな大工作業によるベンチ・机の設置は避け、立木輪切りの椅子等の設置で十分である。更に本公園は面積的にも広く起伏もあり流路すらあるので、見晴らしを借景まで考慮した園路を考えてほしい。
- こうした里山の保全は労力がかかるが、メンバーの定常化などの問題があると思うので、里山保全の団体同士の交流の機会を佐倉市の行政がサポートして、作業や知識を融通し合える環境があればと感じた。